

石井伸一先生退職記念号に寄せて

経済学部長 山 本 通

石井伸一先生は、平成17年3月31日付けをもって本学を定年ご退職されました。

先生は昭和9年に東京都中野区にお生まれになりました。戦時中は疎開し、茨城県立水戸第一高等学校を卒業して、早稲田大学商学部に進学されました。昭和34年3月に同大学を卒業し、直ちに日本放送協会（NHK）に入社されました。NHKでは高い語学運用能力を生かして、特派員、ローマ支局長、外信部や国際部のチーフディレクターとして、おもにヨーロッパを舞台として活躍されました。特派員時代には、ドゴール大統領時代のフランスを中心とした国際問題のニュースを取材し、ローマ支局長時代には、イタリアの政局、経済問題を取材したばかりではなく、ローマの文化遺産に関する取材を行い、また、それらを基にしてテレビ番組を企画・制作されました。チーフディレクター時代には、国際放送報道部の英語ニュース記者ならびに総合デスクを務め、19時の多重放送NHKニュースの総括も担当されました。

平成2年にNHKを退職された後、先生は教育と研究に邁進されるのですが、この局面でNHK在職時代の豊富な経験が生かされことは申すまでもありません。常磐大学（国際センターおよび人間科学部）、桜美林短期大学、淑徳短期大学などで非常勤講師として教鞭をとり、神奈川大学でも平成4年から非常勤講師として「貿易専修英語」を担当されました。平成7年には本学経済学部特任教授に就任し、以後10年間、貿易専修英語、ヨーロッパ経済論、さらにはゼミナールを担当し、大車輪の活躍を続けてこられました。石井先生は本学就任以前にすでに2冊の単著と2冊の共著を刊行していましたが、本学在任中の10年間に、翻訳書『現代フランス移民から見た世界』（明石書店）、共著書『新EU論』（新評論）、そして共著による教科書『Global Business in Japan』（白桃書房）を刊行されました。そして、このたび、この10年間に書かれた幾つかの学術論文を基にして『現代欧州統合論：世紀を拓くヨーロッパ・モデル』（白桃書房）を纏めて刊行されました。このことは、石井先生の神奈川大学在任中の10年間で本当に充実したものであったことを、示しているように思われます。

私どもは、石井先生が定年ご退職後も本学経済学部の非常勤講師として、なおしばらくの間、教壇に立って下さることを喜びとしております。今後とも健康にご留意され、ますますお元気でご活躍くださいますよう、願っております。